

ATC SCM11 SCM7

スピーカー 音質比較



ATC SCM7

希望小売価格 ¥ 150,000

形式：2 ウェイ 2 スピーカー / 密閉型 ●
ユニット高域：new25mmφソフトドーム / ネオジウムマグネット 低域：125mm ● 能率：84dB/W/m ● 定格入力：300w ● 周波数特性：60Hz ~ 22kHz ● サイズ：174W×300H×215D (mm) ● 重量：7.5kg (1本) ● 仕上げ：チェリー・ブラックアッシュ



SCM11 音源は CD をリップした WAVE ファイルで試聴



ヘイリー / アルバム：
オデッセイ / 曲：アペ
マリア

SCM-7 で聞くヘイリーの声は、明るくチャーミングでより若く感じられます。また SCM-11 ではやや出にくかった「情緒」が、

SCM-7 ではより強く感じられます。

ウーファーの口径が SCM-11 よりも小さく SCM-11 に比べると中低域の「重厚感」は薄くなりましたが、このクラスの水準以上の中低音の厚みは十分に感じられます。

しかし、ウーファーのレスポンスが向上しツィーターとのバランスが改善するので、中域から高域にかけての音が「軽く」、「明るく」、「表情が繊細」になりました。SCM-11 と SCM-7 は、どちらが良いというのではなく

雰囲気が違う感じです。大排気量エンジンの重厚感と質感の高さを感じさせてくれたのが SCM-11 なら、SCM-7 は中型排気量のエンジンをブン回す感じです。レスポンスが早く音離れの良い気持ちの良さを感じます。

やや「作られた感（オーディオ的）」を感じ、それがあたる種の快感に繋がっていた SCM-11 に比べると、SCM-7 の音は自然で明るくチャーミングで、音楽はより開放的に鳴ります。心が軽くなる音です。



レディーガガ / アルバム：ARTPOP 曲：AURA

イントロから感じるのは「SCM-7 のレスポンスの良さ」です。SCM-7 を聞くと、SCM-11 の重厚感が「レスポンスの重さ」から

そういう「作られた感」も快感なのですが、それが「SCM-11 の音色がやや単調」という印象を生んだのかもしれません。

SCM-7 で聞く GAGA は、切れ味があります。SCM-11 がヘビー級の重いパンチなら、SCM-7 は手数で勝負するライト級の鋭いジャブです。次から次へと音が洪水のように押し寄せてきます。組み合わせている AIRBOW SR6008 Special は十分なドライブ能力を持っていますが、さすがに SCM-11/7 の「重いウーファー」を駆動制動するのは少し難儀している様子で、う「音

が止まる」のが僅かに遅れる印象ですが、それが「低音のウェット感（若干の端切れ悪さ）」を感じさせるのかも知れません。

SCM-11 が 20 万円強、SCM-7 は 15 万円ペアという低価格ですが、アンプをケチると鳴らないと思えます。もしかすると、100 万円くらいのパワーアンプを使わなければ「鳴りきった」感じがしないかも知れません。価格以上のポテンシャルを秘めた、罪作りのスピーカーです。



ホリー・コール / アルバム：ドント スモークイン ベッド 曲：テネシーワルツ

SCM-11 に比べてイントロのハーモニカの音が軽くなりました。ピ

アノも重苦しさから解放され、軽やかに鳴っています。生演奏に近いという評価軸なら、SCM-7 は SCM-11 に勝ります。しかし、ここがオーディオの面白いところで SCM-11 の何とも言えない「重厚感の魅力」が恋しい気持ちもあります。

ホリー・コールの声、ピアノの音、ハーモニカの「音色の違い」は、SCM-7 がより鮮やかです。楽器の質感

が「生」に近く、音を聞くことに「ストレス」が感じられません。

しかし、やはり「作られた雰囲気を持つ」こともオーディオ的な魅力です。そういう意味では、音楽を聴くなら「SCM-7」、音を聞くなら「SCM-11」と楽しみを使い分けられそうです。

試聴後感想

SCM-11 は音全体を僅かに着色したイメージがありました。しかし、その着色に独自の魅力を感じたことも事実です。その SCM-11 のオーディオの魅力（作られた感じ）を取り除いたスピーカーが SCM-7 です。音楽を聴くという目的のためなら、私は迷わず SCM-7 を選ぶでしょう。SCM-11 よりもレスポンスが早く、スピーカーの独特な音を聞かずに済ませられるからです。

また、SCM-7 は SCM-11 のような特有の色づけを持たないので、楽器やボーカルの違いがはっきりと出ます。ユニットの動きが軽く、音質が開放的な SCM-7 はソースやアンプとのマッチングも穏やかなはずで、SCM-7 にも SCM-11 にも、ATC の独特なイメージ（イギリス的冷たく重い感じ）が若干あります。それを「嫌い」でなければ、SCM-11/7 は購入価格を遙かに上回る

「音の良さ」であなたを納得させてくれるでしょう。価格も含めカジュアルに ATC の良さを味わえる SCM-7 ですが、ペア 15 万円のスピーカーとしては望外の質の高さを持っています。もし SCM-7 の価格が一本 15 万円だといわれても私は驚かず、それでも SCM-7 を迷わず推薦すると思います。両機とも製造コストのかかった、正統派の良いスピーカーでした。

スピーカー ATC 音質比較 SCM11

ATC SCM11

希望小売価格 ¥220,000

形式：2 ウェイ 2 スピーカー / 密閉型 ●
ユニット高域：new25mmφソフトドーム / ネオジウムマグネット 低域：150mm ●能率：85dB/W/m ●定格入力：300w ●周波数特性：56Hz ~ 22kHz ●サイズ：232W×381H×236D (mm) ●重量：10.9kg (1 本) ●仕上げ：チェリー・ブラックアッシュ



最近の試聴テストの手順通り、SR6008 Special でインターネットラジオ放送を連続して 48 時間以上聞いてみました。繋いだ瞬間出てきた音を聞いて、まず驚きました。音が広がらず、細かい音もまったく聞こえず、びっくりするくらいしょぼしょぼした音だったからです。接続を見直し、プラス(上)、マイナス(下)からプラス(下)、マイナス(下)に変更すると、少し音が良くなりました。しかし、それでもペア数万円のスピーカーくらいの音しか出てきません。一体どうしたのか? と思いながら、30 分も鳴らしていると音がまったく変わりました。

エイジング不足を疑い調べましたが、すでに連続で 100 時間は鳴らされていたようです。ともかく、十分試聴に耐えうる音質にまで一気に向上したのでホット胸をなで下ろしました。



通常はケーブルを高域と低域に 1 本ずつ接続するバイワイヤ接続(バイワイヤ対応スピーカーの場合)は、掛けたコストほど音質が上がらないためお勧めしません。

ただ、今回はテストの結果、たすき掛けにせずにプラス・マイナスともに下にケーブルを接続することで音質は向上しました。



SCM11 音源は CD をリップした WAVE ファイルで試聴



ヘイリー / アルバム：オデッセイ / 曲：アペリア

イントロのストリングに厚みがあって、とても細かく鳴ります。ストリングスの中域の厚みが凄く、ぐいぐい押し来る圧力感を覚えます。ボーカルは響きが硬質で引き締まっていますが、テキストイルドーム型ツイーターを使う良さと硬さはなく滑らかです。ボーカル、ストリングス共に音にシッカリした「芯」があり、音像が濁ったり膨らんだりし

ません。この引き締まった感じが「密閉型スピーカー」の良さだと思います。

キャビネットの鳴きが少なく余計な響きが付かないストリングスの音やボーカルが非常に心地よく、左右スピーカーの中心付近で聞く音は密度感・繊細さが共に非常に高く「ヘッドホンの良さ」を感じさせてくれました。

この価格帯のお勧めスピーカーに Stirling Broadcast 社の LS3/5A がありますが、それと比べて SCM-11 は音がさらに引き締まっている印象が強く、「凜」とした音で鳴ります。また低音は密閉型から想像するより「出ない」という印象ではなく、思ったよりも出ます。このクラスの密閉型スピーカーでは Krypton KX-3 がありますが、

SCM-11 の方が中低域の厚みに優れ帯域バランスに優れている印象です。最初は本当に細かい音が鳴らず、酷い音だったのが信じられない変わりようです。

従来モデルから「艶 / 色彩感」が大きく改善され、密閉型の「良さ」を強く感じさせてくれるながら「開放感」や「表情の明るさ」も加わった SCM-11 はこのクラスで自信を持ってお勧めできるスピーカーの一つに仕上がっています。精緻でスムーズな良い音のスピーカーに仕上がっています。比較的小さな部屋でスピーカーの音を直接聞くような使い方では、その能力を最大に発揮しそうです。



音源は CD をリップした WAVE
ファイルをつかいました。

AIRBOW SSS-2013



AIRBOW SR6008 Special



AIRBOW Beat Board



レディー・ガガ / アルバ
ム：ARTPOP 曲：
AURA

手で触れそうなほど音
の密度が高く、定位感
に優れています。低音
は ATC らしく若干
ウェットですが、密閉

の良さでだらしく広がったりしません。余計な響き
が少なく高密度な音色と色彩表現の鮮やかさに「原色」
の美しさを感じられ、滑らかで透明感の高いボーカル
には艶があります。しかし、色彩コントラスト感はその
ほど「濃い」方ではなく、ジャンパーを交換しても
う少し「カラーコントラスト」を上げるとさらに良い
音になると思いました。

SCM-11 の良さは、良い意味で伸びすぎない高音と厚

みのある中音、引き締まった低音による「高い密度感と
帯域バランスの良さ」だと思います。
スピーカーから密度の高い音がぐいぐい前に出て、身体
にぶつかってきます。音のシャワーを浴びる。そういう
表現が当てはまるくらい高密度でパワフルな音が出まし
た。



ホリー・コール / アル
バム：Dont Smo
キン ベッド曲：テネ
シーワルツ

聞き慣れた、ホリー・
コール・トリオの「テ
ネシーワルツ」を聞い
てみました。SCM-11

の搭載するテキスタイルツイーターの「僅かな共振」が、
高音の透明感とエコーの美しさを倍加しています。
ピアノにはしっかりと打鍵感が感じられ、やはり
高密度な音がしっかりとした塊感を持っています。ピ
アノの重厚感はこのクラスのスピーカーでは随一と
いってよい素晴らしさに思いました。ウッドベースの
音も太く、前に出ます。特に中音の厚みと密度感の高
さは、圧倒的と言えるでしょう。

ボーカルを含めたすべての音の質感と高密度な音から、
キャビネットとユニットの剛性高さが伺えます。かなり
コストを掛けなければ出せないこの音が、ペア 20 万円
強のスピーカーから出てくるのは驚きです。少なくとも
2 倍くらいの価格のスピーカーでは出ないほどの、「質
感の高さ」を SCM-11 は感じさせてくれました。

試聴後感想

最初にインターネットラジオを聞いたときは、とても
試聴レポートを書けないような耳を疑うチープな音で
した。それから画期的に音質が向上しましたが、チー
プな音もある意味で SCM-11 の「本質」だと思います。
以前から思うのですが、ATC 製品には「コストがかかっ
ている」と思います。ATC の製品はスピーカーだけでは
なく、「同じ価格の他社製品と比べ遙かにコストが掛け
られている」印象を強く受けます。

密度の低い木材で作られたスピーカーを拳で叩くと低
級な膨らんだ音で響きますが、SCM-11 を拳で叩くと硬
く引き締まった音がします。それはキャビネットが密
度と質の高い厚みのある木材でお金を掛けて作られて
いるからです。ユニットも ATC が「自製」する関係で、
一クラス上の高級なユニットが惜しげもなく奢られて
います。しっかりとコストを掛けて作られたスピーカー
ならではの質が高く引き締まった音を SCM-11 は聞かせ
てくれます。

しかし、欠点もあります。それは「良くも悪くも響き
が少ない」ということです。PC・ネットワークオーディ
オやデジタルアンプの「響きの少ない音質」を
SCM-11 に入力すると私が鳴らし始めに感じたような
「スカスカの音」が出るかも知れません。それは、
SCM-11 に「キャビネットの響きという潤滑剤」が少
ないためです。スピーカーの響きが少ないと、場合によ
っては音と音の間に「隙間」が出来てしまいます。
悪かったときのインターネットラジオは MP3/128bps
の放送ですが、音の密度が不十分だったため「ソース
の悪さ」が露呈したのでしょう。ソースを WAV に切り
替えると驚くほどよい音が聞けましたから、これは
間違いのないと思います。デジタルのかさかさ・スカサ
カの音では、SCM-11 の良さを発揮できません。
SCM-11 はこの価格帯で随一の「質の高さ」を持っ
ていますが、同時に「ソースやアンプに厳しいスピーカー」
でもあります。良質な CD プレーヤー、可能であれば

レコードをソースにして、響きがやや多いアンプ（例え
ば真空管アンプ）などと組み合わせると良さそうです。
密閉型スピーカーは低音が出にくいので、「ハイパワー
なトランジスタアンプと組み合わせなさい」という説
明もありますが、低音を狙ってデジタルアンプなどと組
み合わせると「潤いのない音」になって失敗しそうです。
中低音がやや膨らんでも構わないので、パワーや特性よ
りも響きが多めで潤いのあるアンプやプレーヤーとの組
み合わせがおすすめです。真空管のシングルアンプは出力
が小さいので、能率の低い SCM-11 との組合せでは大音
量は出せません。しかし、自室でしっかりと音楽をお聞
きにされるならこの組み合わせもお勧めです。釣り合
う価格帯のアンプでは、Triode TRV-300SER（プスパン
300B 交換済みモデル）などが、ベストマッチするかも
知れません。